

久米 (本庁予報) 特殊観測は別として、学問上の異論がなければ、10cm に統一してはどうか。

藤原 (本庁測器)、5.6cm の方がよいという小平さんの論文もありましたが。

小平 金をかければ、10cm でもその欠点を補う事が出来るので、総合の性能としては、よいものが出る。

今井 10cm にすると、アンテナが大きくなるので、問題が多い。

大谷 同じ金をかけるのなら、電送や撮影装置に金をかけた方がよい。

吉武 5.6cm が、10cm にくらべ減衰という点では多少おとるが、全部のレーダを波長 10cm に換えなければならぬという強い理由は見当たらない。

(RAREP について)

石硯 RAREP の区切り方を統一した方がよい。

今井 無理をして、統一する必要もないと思うが。

久米 RAREP でデータを集めてファックスで送るのでは時間におくれがある。現場ではその時はすでに処置が済んでいる。また、いまのファックスのスケジュールの中にレーダの実況の放送を組み込むのは余裕がない。現在は、直通電話で実況を知らせて貰っているが、現状では、これが一番効果的である。VHF の片通話は現場では非常に使いにくい。

藤原 (本庁測器) RAREP を作成するには、どの位の時間を要するか。

石硯 台風時に作る 300~400 字位の RAREP で 10 分位かゝる。

藤原 (本庁測器) ファックスの原画を画くのはどの位かゝるか。

石硯 10 分位でしょう。

藤原 (本庁測器) RAREP をやめてファックスで画像を送るようにはどうですか。

大塚 画像をもらっただけでは、使用する側では不便である。強度や移動方向もわかるようにしないと。

久米 ファックスに強度や移動方向を入れるようにしたらどうか。

(異常エコーについて)

吉武 最近、エコーは出ているが、現地では、肉眼で見ても、エコーに相当するような気象上の変化がないという現象が相当数聞かれるが、この事について皆さんのご意見をお聞かせ願いたい。

今井 エンゼル・エコーとはちがうのか。

大谷 ちがうようだ。

立川 室戸のレーダでも、白浜沖などに数回出現した事を経験している。

藤原 (名瀬所長)、やはり数回ある。不連続線はあったが、たゞ普通の雨が降っているだけで、特異な現象は見られなかった。

吉武 台風が海上にあるような場合に、これまではわからなかったが、泡沫のような渦が、たくさんあるのではないのでしょうか。これは、私の単なる想像なのですが。

久米 タイロスの観測によれば、降雨域でなくても、雲の渦は観測されている。台風観測には、タイロス、レーダー、飛行機の三つは欠かせないものだ。

吉武 レーダも雨域の観測だけでなく、他の気象要素例えば、上層の風、温度を測定出来るようになると、利用価値がさらに増すとと思う。

大塚 東京のレーダは、中宮祠付近で一時間 30mm 位の強い雨が降っていても、レーダにエコーが出ない、どんな原因かわからない、ほかのレーダでこんな現象を経験された事はないですか。

藤原 (本庁測器) 中宮祠測候所のデータだけでなく、その付近のロボット雨量観測所のデータもとって、検討して見てはどうか。

小平 地形の影響かもしれない。

吉武 研究所あたりで、異常エコーの資料を集めて、原因を検討するようにはどうですか。種々ご意見もあるかと思いますが、時間も来たようですので、今日はこれで閉会にします。

(記録、気象庁測器課秋山泰三、気象研究所台風研究部柳沢善次、青柳二郎)

【訂正】

Vol. 9. No. 2 の地方だより氷島 T₃ で一部誤って掲載しましたので訂正致します。

- ① T₃ は 1960 年 5 月に暗礁にのりあげたため、1966 年一杯で放棄し、現在観測所として使用していない。
- ② 六車二郎、菊地勝弘氏は T₃ でわなく Lake Pieters に 1962 年 2 月より 1964 年 4 月までの予定で勤務している。